

# ポーランド映画

## 昨日と今日



### FILM POLSKI WCZORAJ I DZIŚ

期間／2005年9月13日(火)～25日(日)

\*9月19日(月)は休館

会場／東京国立近代美術館フィルムセンター 小ホール(地下1階)

#### ご挨拶

東京国立近代美術館フィルムセンターと、2005年日本国際博覧会「愛・地球博」ポーランド館を出展しているポーランド商工会議所は、ポーランド映画の古典的秀作と注目の新作を組み合わせた上映企画「ポーランド映画、昨日と今日」を開催いたします。この企画は、長年ポーランド映画界を率いてきた巨匠アンジェイ・ワイダ監督の発案によるもので、フィルムセンターにとっては1990年以来15年ぶりのポーランド映画の特集となります。1950年代の「ポーランド派」に代表されるポーランド映画の輝かしい伝統と、優秀な新世代の台頭する現代、この二つの時代から選ばれた12作品を上映し、変わる事のないその豊かな映画文化に迫ります。

●主催／東京国立近代美術館フィルムセンター National Film Center. The National Museum of Modern Art, Tokyo, Japan  
ポーランド商工会議所EXPO事務局 Polish Chamber of Commerce - EXPO Bureau, Warsaw, Poland

●協力／駐日ポーランド共和国大使館



opus / film

TVP  
TELEWIZJA POLSKA

●企画協力／アンジェイ・ワイダ ●コーディネーター／大竹洋子、久山宏一

## パート I 1954~1979

### フリギアの星の下で

Pod gwiazdą frygijską

1954年 白黒 112分 日本未公開



監：イェジー・カヴァレロヴィッチ (1922- )  
原：イゴル・ネヴェルリ  
脚：イゴル・ネヴェルリ、イェジー・カヴァレロヴィッチ  
撮：セヴェリン・クルジンスキ  
美：ロマン・マン  
音：スタニスワフ・スクロヴァチエフスキ

出演：ユゼフ・ノヴァク、ルツィナ・ヴィンニツカ、ハリーナ・フシフィルスカ、スタニスワフ・ヤシウキエヴィチ

戦間期の共産党弾圧時代。主人公シュチェンスヌイ（通称ビダ）は活動家マグダとの恋を通して人間的に成長してゆく……。51年にデビューしたカヴァレロヴィッチの第3作で、繊維素（セルロース）工場労働者を描く二部作の後編。続けて、世界的に評判を呼んだ『影』（56）『戦争の真の終り』（57）『夜行列車』（59）『尼僧ヨアンナ』（61）『太陽の王子ファラオ』（1961）を撮る。監督の創作黄金期の先駆けとなった作品である。

### エヴァは眠りたい

Ewa chce spać

1957年 白黒 94分 日本未公開



監：タデウシュ・フミエレフスキ (1927- )  
脚：タデウシュ・フミエレフスキ、アンジェイ・チェカルスキ  
台：イェレミ・フシボラ  
撮：ステファン・マティシュキエヴィッチ  
美：ロマン・マン、アダム・T・ノヴァコフスキ  
音：ヘンリク・チシ

出演：バルバラ・クファトコフスカ、スタニスワフ・ミクルスキ、ステファン・バルティク、マリヤ・カニェフスカ、ロマン・クウォソフスキ

入学式前夜に高校に着いたエヴァが、寄宿舎での宿泊を許されず、泥棒や警官や売春婦たちと触れ合いながら、奇妙な街を歩いてゆく。摩訶不思議な事件が続発して、彼女はなかなか眠れない。フミエレフスキ30歳のデビュー作で、この後も戦争・社会喜劇の人気作を撮り続けたが、本作の可笑しさは不滅！主役のクファトコフスカは、数千人が応募した主役コンクールで選ばれた。

### アマチュア

Amator

1979年 カラー 117分



監：クシシュトフ・ケシロフスキ (1941-1996)  
脚：クシシュトフ・ケシロフスキ  
台：イェジー・シュトゥル、クシシュトフ・ケシロフスキ  
撮：ヤツェク・ペトリツキ  
美：アンジェイ・ラファウ・ヴァルテンベルグ  
音：クシシュトフ・クニツェル

出演：イェジー・シュトゥル、マウゴジャータ・ゾンブコフスカ、イェジー・ノヴァク、タデウシュ・ブラデツキ、クシシュトフ・ザヌッシ

娘の成長を記録する目的で8ミリカメラを買ったフィリップは、勤務先の工場の記念行事を撮影するよう命令される。アマチュア映画が成功し、彼の中に眠っていた芸術家・社会活動家が目を覚ます。ケシロフスキ監督の長編劇映画第3作で、<モラルの不安をめぐる映画>（ザヌッシやホラントが属する）の代表作。主演・台詞協力のシュトゥルは、90年代からは演出にもたずさわり次々と秀作を発表している。

### 鉄路の男

Człowiek na torze

1956年 白黒 80分 日本未公開



監：アンジェイ・ムンク (1921-1961)  
原：イェジー・ステファン・スタヴィンスキ  
脚：イェジー・ステファン・スタヴィンスキ、アンジェイ・ムンク  
撮：ロムアルト・クロバト  
美：ロマン・マン

出演：カジメシユ・オパリンスキ、ジグムント・マチェイェフスキ、ジグムント・ジンデル、ジグムント・リストキエヴィッチ、ロマン・クウォソフスキ

1950年代初め、老機関士オジェホフスキが夜行列車の鉄路に身を投げた。駅舎の一室で事故調査委員会が開かれ、関係者の証言から、彼の高潔な人間性が浮き彫りにされてゆく。ムンクは、ワイダ、カヴァレロヴィッチと並ぶ、<ポーランド派>の代表監督。『白い決死隊』（55）『エロイカ』（57）『やぶにらみの幸福』（59 未）『パサジェルカ』（63）と、現代史にさまざまな方法論で取り組み、稀有の完成度を示した。

### 水の中のナイフ

Nóż w wodzie

1962年 白黒 101分



監：ロマン・ボランスキ (1933- )  
脚：ロマン・ボランスキ、イェジー・スコリモフスキ、ヤクブ・ゴルドベルク  
撮：イェジー・リプマン  
美：ボレスワフ・カムイコフスキ  
音：クシシュトフ・コメダ

出演：レオン・ニェムチク、ヨラント・ウミェツカ、ジグムント・マラノヴィッチ

湖沼地帯に向かって外車を走らせるアンジェイとクリスティナは、途中で若い男を乗せ、さらに自家用ヨットの航行に誘う。三人三様の精神的空虚を暴くボランスキの長編デビュー作。以後『戦場のピアニスト』（02）までの40年間、祖国で映画を撮ることはなかった。無国籍性と消費文化肯定が当時の共産党第一書記の逆鱗に触れたが、作品は国際的評価を受け、逆にポーランド映画の高い芸術性を世界に知らしめた。

### ヴィルコの娘たち

Panny z Wilka

1979年 カラー 116分



監：アンジェイ・ワイダ (1926- )  
原：ヤロスワフ・イヴァシキエヴィッチ  
脚：ズビグニェフ・カミンスキ  
撮：エドヴァルト・クウォシンスキ  
美：アラン・スタルスキ  
音：カロル・シマノフスキ

出演：ダニエル・オルブリフスキ、アンナ・セニユク、クリステイヌ・バスカル、マヤ・コモロフスカ、スタニスワフ・ツェリンスカ、クリスティナ・ザフファトヴィッチ、ゾフィア・ヤロシエフスカ、タデウシュ・ビャウォシンスキ、ヤロスワフ・イヴァシキエヴィッチ

親友の死に打ちのめされたヴィクトルは、叔父夫婦が住む村を訪れ、隣家の6人姉妹に会いに行く。しかし、彼が密かに愛していたフェラは夭逝し、歳月はほかの姉妹にも人生の陰影を刻印していた。ツイブルスキ死後ワイダの秘蔵俳優になったオルブリフスキが、戦間期知識人の典型像を演じきる。多彩な女優陣に加えてワイダ夫人、舞台美術家のザフファトヴィッチが次女を演じ、原作者本人も登場する。

### パートⅡ 1999～2004

#### パン・タデウシュ物語

Pan Tadeusz

1999年 カラー 147分



19世紀初頭のリトアニア。青年タデウシュには出生の秘密があった。育ての親の判事と謎の司祭、清らかな少女ゾーシャとの恋。ロシアを指すナポレオン軍を迎え、人々は祖国解放という大きな理想に力を合わせるが……。民族叙事詩を見事に映像化したワイダ監督渾身の作。熱狂的に迎えられ、国民の5人に1人が映画館に足を運んだ。最高の俳優と撮影・音楽・美術スタッフに支えられた文芸作品の傑作である。

#### エディ

Edi

2002年 カラー 98分 日本未公開



屑鉄を売って生計を立てているエディに、思いがけない出来事が襲いかかった。ボスの妹が、エディの子供を生んだというのだ……。02年グディニヤ・ポーランド劇映画祭審査員特別賞。チヤスカルスキのデビュー作で、実際に目にした男と仏教説話を重ね合わせたという。主演のゴウエンピェフスキは70年代に子役だったが、肉体労働者を経て90年代に復帰、『借金』『仕返し』にも出演している。

\*04年SKIPシティ国際Dシネマフェスティバルで作品賞を受賞。

#### ワルシャワ

Warszawa

2003年 カラー 105分 日本未公開



恋人と暮らそうと上京したクララ、職探しのパヴェウ、フラメンコ・ダンサー志望のヴィクトリア、自称実業家アンジェイ、家出した娘を探す父、記憶を失ってさ迷う元蜂起兵。彼らが冬のワルシャワですごく早朝から深夜までの18時間を同時進行で描く。ガイェフスキの劇映画第1作で、03年グディニヤ・ポーランド劇映画祭のグランプリ受賞。ワルシャワの反=視光映画、地図を持たない彷徨を体験させる作品。

監: アンジェイ・ワイダ  
原: アダム・ミツキエヴィッチ  
脚: アンジェイ・ワイダ、ヤン・ノヴィナ・ザジツキ、ピョートル・ヴェレシニヤク  
撮: パヴェウ・エデルマン  
美: アラン・スタルスキ  
音: ヴォイチェフ・キラル

出演: ボグスワフ・リングダ、ダニエル・オルブリフスキ、グラジナ・シャボウォフスカ、アンジェイ・セヴェリン、マレク・コンドラト、ミハル・ジェプロフスキ、アリツィア・パフロダニツルシ、クシシュトフ・コルベルゲル

監: ピョートル・チヤスカルスキ (1964- )  
脚: ヴォイチェフ・レピヤンカ、ピョートル・チヤスカルスキ

撮: クシシュトフ・プタク  
美: ヴォイチェフ・ジョガフ  
音: ヴォイチェフ・レマンスキ

出演: ヘンリク・ゴウエンピェフスキ、ヤツェク・ブラチャク、アレクサンドラ・キショ、トマシユ・ヤロシユ

監: ダリウシュ・ガイェフスキ (1964- )  
脚: ダリウシュ・ガイェフスキ、マテウシュ・ベドナルキエヴィッチ

撮: ヴォイチェフ・シェベル  
美: エルヴィラ・ブルーダ  
音: グルーブ〈コルモラヌイ〉

出演: アグニェシュカ・グロホフスカ、ウカシユ・ガルリツキ、ドミニカ・オスタウォフスカ、レフ・マツキエヴィッチ、スワヴォミル・オジェホフスキ、アンジェイ・シェイナフ、ウメダ・トモホ

#### 借金

Dług

1999年 カラー 97分 日本未公開



監: クシシュトフ・クラウゼ (1953- )  
脚: クシシュトフ・クラウゼ、イェジー・モラフスキ  
撮: ハルトシュ・プロコボヴィツ  
美: マグダレナ・ディポント  
音: ミハウ・ウルバニヤク

出演: ロベルト・ゴネラ、ヤツェク・ボルツフ、アンジェイ・ヒラ、ツェザリ・コシンスキ、ヨアンナ・シュルミェイ、アグニェシュカ・ヴァルフルスカ

工場建設資金の調達に保証人が必要になったアダムとステファンは、旧友ゲラルトの助けを借りる。だが彼は、歩合と必要経費の支払いを求め、日に日に増大する架空の<借金>返済を迫る。追いつめられた彼らは……。クラウゼの第3作で、99年グディニヤ・ポーランド劇映画祭グランプリ作品。実在の殺人事件をもとに、監督とルポライターが共同で脚本を書いた。体制転換期ポーランドに急激に浸透する資本主義を、追真的に追求している。

#### 仕返し

Zemsta

2002年 カラー 100分 日本未公開



監: アンジェイ・ワイダ  
原: アレクサンデル・フレドロ  
脚: アンジェイ・ワイダ  
撮: パヴェウ・エデルマン  
美: タデウシュ・コサレヴィッチ、マグダレナ・ディポント  
音: ヴォイチェフ・キラル

出演: ロマン・ボランスキ、ヤヌシユ・ガヨス、アンジェイ・セヴェリン、カタジナ・フィグーラ、ダニエル・オルブリフスキ、アガタ・プセック、ラファウ・クルリコフスキ

城を半分ずつ所有している二人の罅。相手の意地悪への〈仕返し〉のつもりがそれぞれの姪と息子の結婚式で終結し、めでたしめでたし。『パン・タデウシュ』と同時期に書かれた古典喜劇を映画化し、〈ポーランド性〉の解剖に挑んだワイダの最新作。ポーランド演劇映画界の名優たち、ボランスキ、オルブリフスキ、ガヨス、セヴェリン、クルリコフスキが楽しみながら演技合戦を繰り広げる。

#### 答の痕

Pregi

2004年 カラー 91分 日本未公開



監: マグダレナ・ビェコシュ (1974- )  
原・脚: ヴォイチェフ・クチョク  
撮: マルチン・コシャウカ  
美: ヨアンナ・ドロシキエヴィツカ、エヴァ・スコチコフスカ  
音: アドリアン・コナルスキ

出演: ミハウ・ジェプロフスキ、ヤン・フリチ、アグニェシュカ・グロホフスカ、ヴァツワフ・アダムチック、ポリス・シツ、ヤン・ペシエク

母の死後、厳格な父に育てられた少年ヴォイチェフは、30歳になっても周囲と決して妥協せず、洞窟探検に没頭する。しかしターニヤとの出会いが奇跡のような愛と再生をもたらす。女性監督ビェコシュのデビュー作で、04年グディニヤ・ポーランド劇映画祭のグランプリ受賞。若い小説家の原作も高い評価を得た。主演は、『パン・タデウシュ物語』のジェプロフスキと『ワルシャワ』のグロホフスカ。

## アンジェイ・ワイダ「ポーランド映画講義」より

ポーランド映画はロマン主義の伝統に依拠しました。それが唯一、強力で明確なポーランドの芸術伝統だからです。この伝統は、民族の声と良心としての芸術家像を作り上げました。これは偉大で美しく、そして重い責務なのです。

かつて、あらゆる検閲上の制限、それによる削除や変更があったにもかかわらず、作品を自らの声で語ることが、<ポーランド派>の力でした。私たちは、「自分の名前を署名した映画は自分の映画である」と断言できたのです。

ポーランド映画の生命は、次々に出現する才能あって

のもです。<ポーランド派>の後にはボランスキ、スコリモフスキが、70年代には<モラルの不安をめぐる映画>のザヌッシ、ケンシロフスキ、マルチェフスキ、ホラントが登場し、その後も若い優れた監督が続々と頭角を現しています。映画界は常に、若い芸術家が新しい何かを生み出すのを待ち望んでいるのです。ある日、突然映画の製作者や配給業者が現れて、私たちに観客の好みに適合した映画作りを無理強いする、などという事態が起きてはなりません。今後も私たちは世界に向けて「語るべき何か」を持ち、映画人はそれに責任をとりつづけなくてはならないのです。

月	火	水	木	金	土	日
<b>パートI 1954~1979</b>						
12	13	14	15	16	17	18
	2:30pm フリギアの星の下で	2:30pm エヴァは眠りたい	2:30pm アマチュア	2:30pm 水の中のナイフ	1:00pm ヴィルコの娘たち	1:00pm 鉄路の男
	6:30pm 鉄路の男	6:30pm 水の中のナイフ	6:30pm ヴィルコの娘たち	6:30pm フリギアの星の下で	4:00pm エヴァは眠りたい	4:00pm アマチュア
<b>パートII 1999~2004</b>						
19	20	21	22	23	24	25
	2:30pm パン・タデウシュ物語	2:30pm エディ	2:30pm ワルシャワ	1:00pm 借金	1:00pm 仕返し	1:00pm むちあと 答の痕
	6:30pm 借金	6:30pm 仕返し	6:30pm むちあと 答の痕	4:00pm エディ	4:00pm ワルシャワ	4:00pm パン・タデウシュ物語

開映後の入場はできません。

定員=151名(各回入替制)

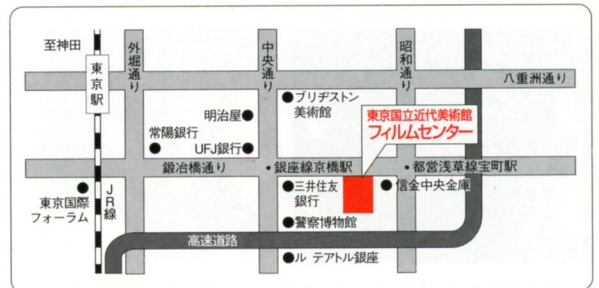
発券=地下1階受付

料金=一般500円/高校・大学生・シニア300円/  
小・中学生100円

- 観覧券は当日・当該回にのみ有効です。
- 発券・開場は開映の30分前から行い、定員に達し次第締切となります。
- シニア(65歳以上)の方は、必ず年齢を証明できるものをご提示ください。

東京国立近代美術館フィルムセンター

〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6



### ▼交通:

東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分  
都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分  
東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より 徒歩5分  
JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分